

令和7年度 県立北茨城特別支援学校 自己評価表

No. 1

目指す学校像	◆児童生徒・教職員が笑顔あふれ、安心安全に学べる学校 ◆一人一人が自己存在感を実感し、楽しく学び合える学校 ◆保護者や地域から信頼され、特別支援教育の発展に貢献できる学校		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善に取り組み、児童生徒による授業評価結果では、97%の児童生徒がA（よく分かる）・B（大体よく分かる）と回答し、新しいことが知れる、分からないときに聞けるという項目で有意差が見られた。 ・今後は更に各教科等の単元計画の作成、年間指導計画の見直し改善に取り組む。 	1 心豊かな学び	①各教科における単元計画シートを活用した授業づくりの充実 ②各教科等の目標を達成するための学習活動、年間指導計画の見直し及び改善 ③ICTを活用した個別最適な学び、協働的な学びの充実 ④体験を軸としたキャリア教育の系統的取り組み	A
<ul style="list-style-type: none"> ・地震、津波の避難経路については、公共機関との連携が構築され、より安全なルートの確保ができた。 ・行政や地域との連携を密にした避難訓練を実施していく。 	2 安心・安全	⑤危機管理体制の見直し・改善 ⑥安心・安全な教育環境（児童生徒の輝く活躍の場の設定） ⑦防災、健康、消費者教育の充実	A
<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動は、地域の様々な分野の専門家等を交えて全校で実施できた。 ・地域の施設「期待場」を活用した小中学校との作品展を実施し、131名の来場者に作品を見ていただくことができた。 	3 地域と共にある学校	⑧地域の人財や企業、環境など地域資源を活用した教育活動の充実 ⑨児童生徒の作品等をとおした間接交流と本校の魅力発信 ⑩学校・PTA・地域交流を目指す「きたとく祭」「つながるマルシェ@きたとく」等の充実	A
<ul style="list-style-type: none"> ・学びの場を地域に広げ、豊かな体験活動をとおして自己肯定感を育んでいく。 ・本校研修会では、地域の学校や施設等が参加できるようにし、学び合いができた。 	4 地域に沿った特別支援教育の推進	⑪地域の実態を適切に把握した巡回相談の充実 ⑫互いの人権を尊重し合える交流及び共同学習の推進 ⑬「みんなで地域支援」をコンセプトとした支援体制の充実 ⑭地域のニーズに応じた特別支援学校地域連携体制構築事業、特別支援教育推進体制充実事業の実践	B
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の方も参加できる研修会を設定し、学び合いを広げていく。 ・コンプライアンス遵守に向けて、教職員主体の自分事研修を実施していく。 	5 専門性向上と働きやすさ	⑮「アクティブラーナー」を目指す専門性向上研修の充実 ⑯「強み」を生かした教職員の相互研修 ⑰業務改善にかかるボトムアップ研修の充実（7月、12月実施）	A

評価項目	具体的目標	具体的方策	重点目標との関連	評価	成果(○)、課題(●)及び次年度(学期)への改善策(◇)
学校経営 管理 教育計画	安心安全で魅力ある教育環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の活躍できる場（多様な学びの場）の設定 ・地域、関係機関との連携による地震・津波避難訓練 	①②③④ ⑤⑥⑦⑧ ⑨⑩	A	○児童生徒の88%が学校で楽しいこと、頑張っていることがあると回答した。 ●避難経路の見直し改善 ◇高北清掃センターでの引き渡し訓練の実施
	グランドデザインの努力目標100%実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営委員会、教職員アンケートによる意見を生かしたグランドデザインの設定 ・グランドデザインに基づいた教育目標の実現 			
教職員の 育成及び 指導・監督	強みを生かした「学び合い」「支え合い」	<ul style="list-style-type: none"> ・学校課題に応じた研修会の実施 ・管理職によるあいさつ+α「強み・良さ」の発信 ・「強み」を生かした教職員の相互研修 ・新規採用者、異動1年目の教諭への面談実施 	③⑥⑧⑩ ⑫⑬⑭⑮	A	○地域に発信しながら専門性向上研修会を実施した。学年主任による学年の教職員自慢を発信した。 ●時代に応じたミドルリーダーの育成 ◇教員としての資質能力の向上に向けた人財育成
	ミドルリーダーの育成	<ul style="list-style-type: none"> ・学年主任研修会の実施 ・校務分掌部長との面談実施 			
対外活動	地域学校協働活動の各部における実践	<ul style="list-style-type: none"> ・地域資源を活用した体験学習の実施 ・地域学校協働活動の継続 	⑧⑨⑩⑪ ⑫⑬⑭	A	○全学年、部が地域での学びを体験でき、郷土愛を深めた。 ●持続可能なカリキュラムマネジメント ◇課題分析と実行機能の明確化
	地域に沿った特別支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の小中学校へのアンケート実施 ・地域のニーズに沿った特別支援学校地域連携体制構築事業、特別支援教育推進体制充実事業の実践 			
コンプライアンス確保	自分事としてのコンプライアンス意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議、Classroomでの情報共有 ・自分事研修の実施（年間2回） 	⑤⑥⑮	A	○毎月の研修実施100% ●自分事意識の醸成 ◇働きやすい職場環境
働き方改革	業務改善への意識改革	<ul style="list-style-type: none"> ・業務改善に係るボトムアップ会議の実施 ・業務改善の可視化と周知 	⑤⑥⑮⑯ ⑰	B	○意見に基づく改善実施 ●校務支援システムの運用、教材管理 ◇情報共有方法の可視化
ICT活用	教職員のICT活用研修	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に研修実施 ・ClassroomによるICTに関する情報共有の可視化 	①③⑥⑮ ⑯⑰	A	○教職員のICT活用100% ●より個別最適な使い方 ◇児童生徒のアウトプットを支える活用
	ICTを活用した効果的な個別最適な学び方の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善の振り返りでの検証 ・モデルケースの紹介 			

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない